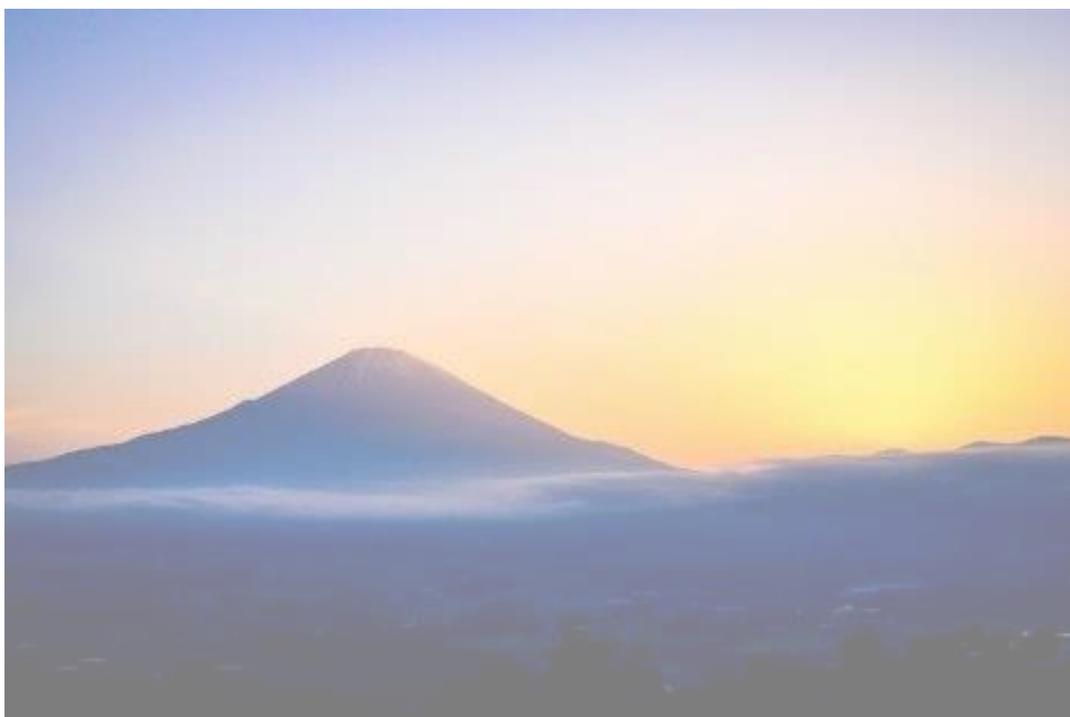


第3次小山町 観光振興計画 (2026~2030)

富士を望む伝説のまち おやま

Oyama, the town of legend at the foot of Mt. Fuji



令和8年3月
小山町

計画の構成（目次）

第1章 観光振興計画について	1
1 観光振興計画策定の趣旨	1
2 計画策定の基本的な考え方	2
3 総合計画・観光振興計画・アクションプランの関係	3
第2章 小山町観光の現状と課題	4
1 「富士山」「金太郎」「スピードウェイ」を核とした誘客	4
2 広域移動に対応した受け入れの充実	5
3 おもてなしの環境整備	5
4 コロナ後の観光のあり方の構築	5
5 幅広い視点での誘客	6
6 スポーツツーリズムへの展開	6
7 官民・産業間の連携による「稼ぐ力」	7
8 スマホを活用した対応の充実	7
第3章 基本構想	8
1 基本目標	8
2 基本方針	9
3 施策体系	10
第4章 基本計画	12
基本方針1 富士山交流観光プログラム	12
基本方針2 元気にぎわい観光プログラム	18
基本方針3 観光インフラ整備プログラム	26
第5章 計画推進について	31
1 基本的な考え方	31
2 推進体制	31

第1章 観光振興計画について

1 観光振興計画策定の趣旨

- ・2020年以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国内外の観光需要は大きく落ち込み、全国の観光地・産業は厳しい状況に置かれてきましたが、2022年10月の水際措置の大幅緩和や全国旅行支援の開始以降、需要は急速に回復し、2023年には全国各地の多くの観光地が賑わいを取り戻しました。2024年は、特にインバウンド需要が好調であり力強い成長軌道にあります。
- ・本町では、令和2年度に「第二次小山町観光振興計画（令和3年度～令和7年度）」を策定し、観光の振興を総合的かつ計画的に推進してきました。
- ・本町を取り巻く状況は、人口減少や商業機能の低下などにより地域の活力が衰退していることなどから、厳しい状況が続いています。一方、富士山の世界文化遺産登録をはじめ、2つの道の駅の整備、東名高速道路足柄サービスエリア（以下、足柄SA）へのスマートインターチェンジ（以下、SIC）の設置や、今後、新東名高速道路の開通、（仮称）小山パーキングエリア（以下、小山PA）へのSIC開設など、地域活性化のきっかけとなる要素があります。
- ・本町の観光動向では、富裕層向けの上質なホテルが相次いで開業し（強羅花壇、富士スピードウェイホテル）、全国と同様に外国人訪日客の数や消費が急速に伸びており、複合型温泉リゾート「アクアイグニス」の進出も計画されています。
- ・また、広域交通機能では、（仮称）小山PAへのSIC開設と新秦野ICから新御殿場IC間の開通が予定されており、これにより、新たな企業の立地や観光への好影響など地域振興への新たな可能性が期待されています。
- ・今後は、オーバーツーリズムとならない持続可能な観光を目指すほか、来訪者数（量）よりも消費や体験の内容（質）を求めていくことが望まれます。
- ・これらの観光振興を支えていく組織として、令和7年7月に観光地域づくり法人「株式会社まちづくり公社おやま」を設立し、今後は、地域、事業者、行政が一体となった“観光まちづくり”を推進していくことを予定しています。
- ・持続可能な観光まちづくりを支えるため、観光インフラ整備や資源保全に資する新たな財源確保の枠組みを体系的に整えていきます。
- ・第3次「小山町観光振興計画は、小山町観光振興条例（平成25年3月）この条例に基づいた計画であり、多くの町民や事業者の協力と理解を得ながら、幅広い視点で本町の活性化を捉えて、今後の観光振興の基本的な取組をとりまとめたものです。

2 計画策定の基本的な考え方

(1) 総合計画を踏まえる

第5次小山町総合計画（後期基本計画：2026年度～2030年度）を上位とし、計画期間を2026年度～2030年度の5か年とする計画です。

(2) 観光振興条例に基づく

観光振興の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、小山町観光振興条例（第8条第1項）に定める計画です。

(3) 幅広い分野の「交流」の要素をもつ

「観光」として捉えていく分野が、ビジネスでの来訪者やスポーツイベントの参加者など「交流」の要素を含む幅広い分野として定着しつつあることから、計画に記載する分野も幅広いものとなっています。

(4) 広域的な視点をもつ

富士山を取り巻く市町村や箱根方面など、広域的な取組が重要視されていることから、計画内容にも広域的視点を反映しています。

(5) 協働の取組を示す

観光振興の推進に際して、行政、観光協会、商工会、団体・NPO、観光関連事業者、住民などがそれぞれの役割を担いながら、目標を共有し、共に力を合わせていく協働の取組を示した計画です。

(6) アクションプラン（別冊）を作成する

本計画書に記述している施策について、具体的に取り組んでいく（活動していく）施策内容を「第3次小山町観光振興計画・アクションプラン」（別冊）として作成します。

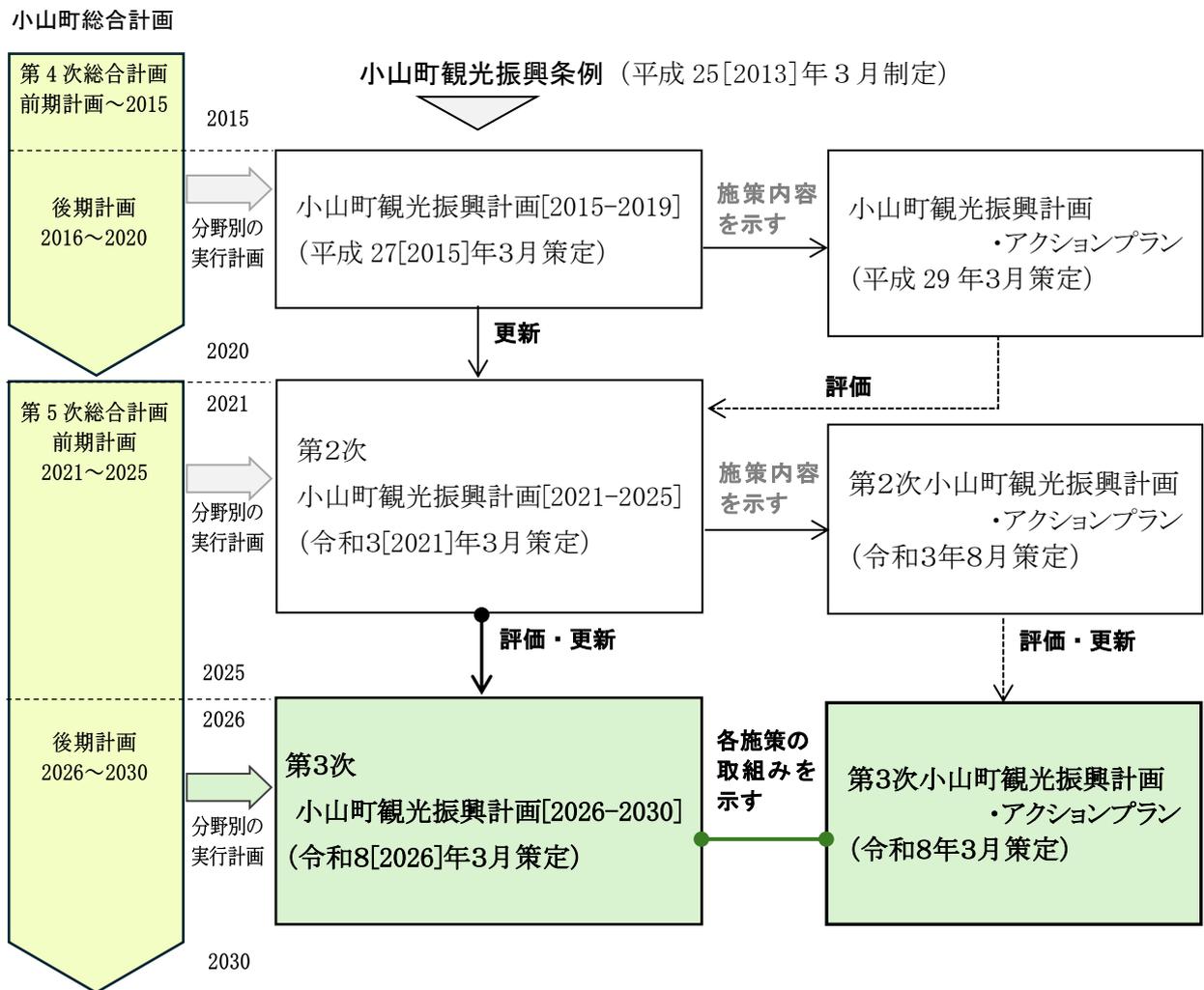
(7) 計画指標をもつ（アクションプラン）

アクションプランは振興計画の施策と連動しています。これまでに作成してきたアクションプランは、作成時の観光振興計画の評価項目を継承しながら更新してきましたが、今回のアクションプラン（第3次アクションプラン）においては、第3次観光振興計画に位置づけた各施策の全てを網羅しており、その項目（施策内容）は、取組の進捗状況を可能な限り定量的（一部定性的）に把握できる指標として設定しています。

3 総合計画・観光振興計画・アクションプランの関係

- 第3次小山町観光振興計画は本町の最上位計画である「第5次小山町総合計画・後期計画」の“分野別の実行計画（観光分野）”として位置づけています。
- 第3次小山町観光振興計画・アクションプランは、「第3次小山町観光振興計画」の各施策の取組み内容（施策内容）を示しており、できる限り毎年度の進捗が確認できる項目（目標指標）を設定しています。

《総合計画・観光振興計画・アクションプランの関係図》



第2章 小山町観光の現状と課題

1 「富士山」「金太郎」「富士スピードウェイ」を核とした誘客

- ・世界文化遺産である富士山には、国内外から毎年約 20 万人以上の登山者が訪れ、弾丸登山や山小屋や登山道のキャパシティを超える入山などが問題になっていました。新型コロナの影響により減少した登山者は、令和6年度にはコロナ以前の9割程度まで回復していますが、経験の浅い登山者や外国人の増加により、新たな安全対策が課題となっています。
- ・特に、須走ルートでは、五合目駐車場から登山道への動線、待避所不足、多言語対応の情報提供などの問題を解決する必要があります。
- ・令和7年度から富士山の入山料が課せられているほか、入山制限がおこなわれています。これまでのところ、大きな問題は起きていませんが、今後も良好な環境を維持していくためにマナー指導や安全管理の強化などに取り組む必要があります。
- ・金太郎にまつわる奥深いキャラクターの魅力を活かしたプロモーションを展開し、元気で力強い金太郎のイメージや伝説・逸話などを町外にPRしていくほか、金太郎のシンボルデザイン、商品のブランド化などを継続して進める必要があります。
- ・富士スピードウェイ（以下、F S W）周辺では、「富士モータースポーツフォレスト」プロジェクトの開発が進められており、質の高い宿泊施設の相次ぐ開業を背景として、インバウンドの来訪・滞在者が急速に増大しています。2026年以降にも、レストラン、天然温泉やサウナ、木々に囲まれたホテルとドッグフレンドリーな施設として、（仮称）おおみかテラスが順次開設される予定です。このため、新たに増強されていくF S W周辺の観光ポテンシャルを町内に拡散するとともに、F S Wのイベント時などにおいて課題となっている交通混雑への対応を進め、地域をあげて来町者を受け入れていく気運を醸成していくことが望まれています。



金時山から見る富士山



サーキットを望むホテル [ホームページより]

2 広域移動に対応した受け入れの充実

- 交通面では既存の足柄SAに加え、新たな移動拠点となる小山SICの整備が進行中です。さらに観光コンテンツとしても、「アクアイグニス」や「(仮称) おおみかテラス」の開業に向けた準備が進められており、集客に向けたポテンシャルは飛躍的に高まっています。このため、新たに整備される利便性向上を好機と捉え、2つの道の駅も含めた交通基盤の活用が必要です。

- 一方で、来訪者の受け入れ体制には構造的な課題が残ります。特に新幹線停車駅である三島駅からのアクセスが不便であることは、遠方からの誘客において大きな障壁です。加えて、町内の二次交通が限られるため、来訪者が町内の各拠点をスムーズに周遊できていないのが現状です。



(仮称)おおみかホテルの整備イメージ [ホームページより]

- せっかくの魅力的な新施設も、アクセスが整備されなければ効果は限定的です。今後は単独での誘客にとどまらず、富士吉田や富士宮を含む広域的な観光ルートを視野に入れた連携が不可欠です。単なる「通過点」にならないよう、広域での交通ネットワーク構築と、滞在時間を延ばすための魅力発信が急務といえます。

3 おもてなしの環境整備

- 宿泊者の推移をみると、コロナ渦からの回復を支えているのは外国人観光客であることがわかり、登山者を含めて、その傾向ははっきりとわかります。この背景には相次いで開業した富裕層向けのホテルの宿泊利用があります。インバウンドの来訪者に対して、標識やパンフレットなどへの外国語表記の拡充、Wi-Fi環境の整備などを継続的に実施していく必要があります。
- 観光交流に関わる方以外にも、来訪者に温かな「おもてなし」の心で接する意識の醸成が必要になっています。また、おもてなしが必要な人材として、外国人研修生、UIJターン人材の確保や観光に関連する業種における事業継承などが必要となってきます。
- 恵まれた自然環境や歴史文化、四季折々の風景などを観光の魅力として発信し、集客に繋げていく着地型観光の取組みを強化していく必要があります。
- 新たに整備される新東名高速道路や国道138号バイパスによる交通利便性向上を好機と捉え、2つの道の駅も含めた交通基盤の活用が必要です。

4 コロナ後の観光のあり方の構築

- コロナ禍では来町者が激減し、大きな影響がありましたが、宿泊数についてはコロナ以前の水準まで回復しています。この回復はインバウンド来訪者の宿泊が増えているのが特徴であり、今後も同様の傾向が続くと思われます。町内に開設された宿泊施設に海外からの富裕層が長期間滞在することが増え、これらの来訪者への遡及していく方向性としては、特別な待遇を感じられる高付加価値な体験や美容、健康をコンセプトとしたツアーなどが考えられます。

5 幅広い視点での誘客

- ・山梨県や神奈川県など周辺の観光地とあわせて旅行する多くの来訪者のため、県境を越えた周辺自治体とも連携する広域の観光施策を展開していく必要があります。
- ・小山町のフィルムコミッションが携わるロケ実績は、コロナ以前の水準と比較しても多く、さらに増加傾向にあります。このため、本町のロケ地の魅力発信による地域振興を強化するとともに、作品の聖地巡礼などの情報発信などによる観光誘客を促進していくことが望めます。

6 スポーツツーリズムへの展開

- ・スポーツを通じて交流人口を増やしていく観光のあり方が注目され、近隣の自治体においてもスポーツ施設の整備や宿泊機能の向上などの取組みが進められております。本町においても夏季を中心に準高地の条件を活かしたスポーツ合宿などの需要があります。
- ・豊かな景観や起伏の多い地形を目指すサイクリストの来訪が多くなっています。また、F S Wやふじあざみラインを利用した自転車大会が開催されています。
- ・今後は周辺自治体との連携を取り入れながら、地域の資源を活かしたスポーツツーリズムを展開していく必要があります。
- ・町内 11 箇所のゴルフ場は、首都圏からの交通アクセスが良好で変化に富んだレイアウトを有し、どのコースもプレーヤーを飽きさせません。また、全てのゴルフ場から雄大な富士山を望むことができます。この恵まれた条件を活かし、宿泊ゴルフパックや学生向けゴルフ合宿の企画、ゴルフ利用以外でもレストランを観光ツアーの食事場所に活用してもらうなど、周辺の宿泊施設や観光施設と連携した新たな取組みに着手する姿勢が望めます。
- ・増加傾向にあるトレッキング客に対し、富士箱根トレイルの魅力をもっとPRしつつ、危険箇所や標識を整備し、人気のあるトレイルコースに成長させる必要があります。
- ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック自転車ロードレースのゴールとなったF S Wや走行空間となった道路をオリンピック・パラリンピックレガシーと位置づけ、更なるサイクリストの来訪を促す取組として打ち出していくことが必要です。



スポーツ合宿（野球）



ツアー・オブ・ジャパン

7 官民・産業間の連携による「稼ぐ力」

- ・町では、令和7年7月に観光庁の候補DMO[※]組織として「株式会社まちづくり公社おやま」を設立し、登録DMOを目指して観光地域づくりに取り組んでいます。DMOは、地域資源を活用した滞在型観光メニューの開発に取り組んでいます。未だ小山町の観光交流客数は大規模集客施設に依存している状況です。
- ・まちづくり公社おやまが目指す観光地域づくりのコンセプト「富士山の大地で紡ぐ、アクティブと癒しの交差点」に向けて、官民・産業間の連携により経営の視点を強化し「稼ぐ力」を生み出していくことが、本町にとっての喫緊の課題となっています。

※DMOとは、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定し、着実に遂行する機能を備えた観光地域づくり法人のことです。

8 スマホを活用した対応の充実

- ・宿泊・食事・アクティビティの検索や予約、事前や現地での地域情報入手、ナビゲーション、キャッシュレス決済など、観光に係る多くの側面でスマホ利用が急速に進んでおり、町内の各種施設や体制においてこれらに対応することが極めて重要ですが、個々の対応には限界があるため、町全体での取組みを考慮する必要があります。
- ・本町では道路や各種観光施設の整備が進んでいるため、これらに係る観光情報を常に更新し、町民にも周知していく必要があります。
- ・特に、増加傾向にあるインバウンド客や多様化する旅行者ニーズへの対応として、町ホームページや一部の観光地の案内がスマートフォン等で多言語対応されており、また道の駅「ふじおやま」のレストランも多言語オーダーシステムを導入しています。今後は、外国人観光客に対応するための接遇研修や外国語標記の充実などをはじめとして、事業者や地域住民、行政が一体となった更なる展開が望まれます。特に団体客から個人客へのシフトが進んでおり、この需要把握と適切なプログラム提供が望まれます。

第3章 基本構想

1. 基本目標

富士を望む伝説のまち おやま

Oyama, the town of legend at the foot of Mt. Fuji

富士山が世界文化遺産に登録され、小山町は須走口登山道と富士浅間神社という2つの構成資産を有する町となりました。また、本町には「金太郎生誕の地」として金太郎にゆかりのある場所が多くあるほか、富士紡績の繁栄を今に伝える豊門公園や森村橋などの文化財、足柄城跡などの史跡、多くのゴルフ場や大型観光施設、2箇所の道の駅、温泉もあり、観光資源に恵まれています。



近年では、2020年から本格的に蔓延し始めたコロナの影響により、観光関連業種が深刻な打撃を受けるなか、本町は、東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技大会（以下、東京2020大会）の舞台となり、競技開催をきっかけに様々なレガシー（遺産・成果）が残されました。

小山町は東京2020大会のコース地として国際映像・報道に登場し、「富士山麓」「金太郎生誕の地」「モータースポーツのまち」というイメージを国内外に発信し、地域住民の誇り・シビックプライドも醸成されました。

今後は、2027年に予定されている新東名高速道路（新御殿場IC－新秦野IC）の開通に併せて（仮称）小山PAとSICが新たに整備されることから、首都圏をはじめとする町外からのアクセスが益々向上します。

また、東京2020大会の開催とコロナの終息、加えて国際的にも上質なホテルの相次ぐ開業により、インバウンド観光客が急速に増えているなか、インバウンドの富裕層の滞在型観光が高まっていくことが予想されます。

一方、観光振興を効果的に進めていくためには、これまで以上に、行政、民間事業者、住民、各種団体などが協働・共創によって進めていくことが重要となり、それぞれの担い手には、スピード感のある展開が求められています。

特に、DMO（観光地域づくり法人）の設立に向けた取組みは、本町のまちづくりにおいて重要な施策として取り組んでいく必要があります。

以上の状況から、「富士を望む伝説のまち おやま」を本町の観光振興の目標とします。

2. 基本方針

(1) 富士山交流観光プログラム

世界文化遺産である富士山の歴史文化、水と緑に恵まれた自然、そして富士山の絶景を小山町のすばらしい観光資源として活用し、観光交流客数の増加を図ります。

特に、小富士や浅間神社のすばらしさのほか、富士山須走口・登山ルート安全性について魅力の発信と“おもてなし”に努め、来訪者の満足度を高めます。



小富士から望む富士山

(2) 元気にぎわい観光プログラム

金太郎のように元気にぎわいのあるまちを目指し、金太郎伝説などの日本らしさのある伝説を地域の伝統文化とともに発信するほか、ゴルフ・モータースポーツ、道の駅や大規模リゾート施設など、様々な観光拠点施設や資源を活用し、観光交流客数を増やします。

特に、インバウンド来訪者へのおもてなしの向上に努めるとともに、富裕層や長期滞在者などに向けて、さらなる魅力の発信を進めます。



モータースポーツ

(3) 観光インフラ整備プログラム

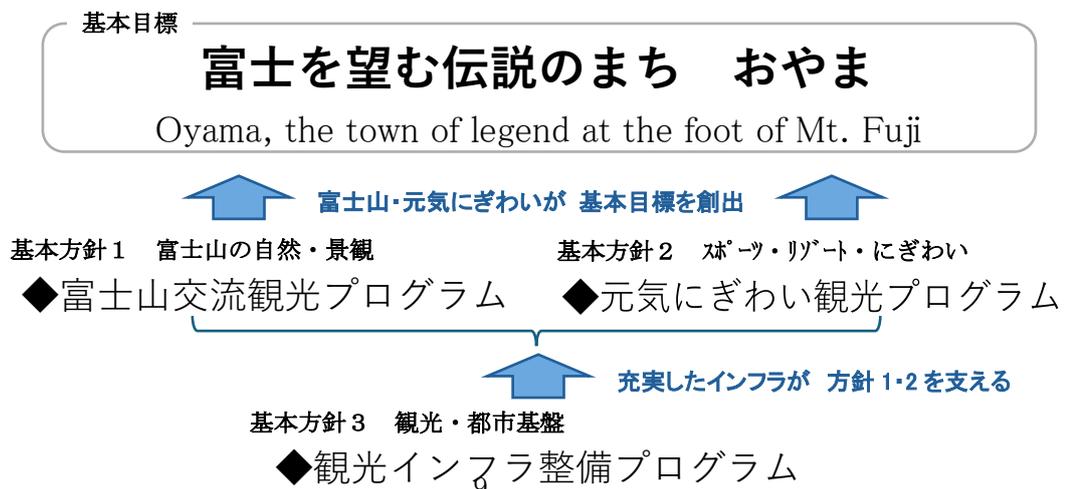
町の観光資源の魅力をも未来に向けて継承し、最大限引き出すために、情報・交通基盤の整備や広域連携の推進、観光客の受け入れ態勢の充実など、観光インフラの整備を行います。

特に、こうした整備と、観光の質を持続的に高めていくため、観光DMOによる官民連携の体制強化に取り組むほか、安定的な財源を確保するための新たな仕組みについて検討を進めます。



町内観光拠点から小山SICへのアクセス

■基本目標と基本方針の関係



3. 施策体系

基本方針 1

富士山交流観光 プログラム

- 施策1 須走口五合目の魅力を高めます
- 施策2 登山者などへの対応を充実します
- 施策3 須走口五合目散策コース・富士箱根トレイルを活用しま
- 施策4 富士山の眺望スポットを整備します
- 施策5 富士山巡拝の道プロジェクトを進めます
- 施策6 富士山の環境保全を観光振興につなげます
- 施策7 美化活動を進めます
- 施策8 観光地の危機管理対策を構築します

基本方針 2

元気にぎわい 観光プログラム

- 施策1 金太郎をシンボルとした観光活性を図ります
- 施策2 富士スピードウェイ（FSW）周辺への誘客を拡大します
- 施策3 スポーツによる誘客を進めます
- 施策4 農のある暮らしをにぎわいに活かします
- 施策5 自転車による観光振興を進めます
- 施策6 自衛隊との連携による観光振興を進めます
- 施策7 観光関連遺産を活用します
- 施策8 新たな観光スポットを整備します
- 施策9 ハイキングコースを活用します
- 施策10 ロケ地としての強みを活かし知名度を高めます
- 施策11 祭りを誘客につなげます

基本方針 3

観光インフラ 整備プログラム

- 施策1 シティプロモーションの充実を図ります
- 施策2 おもてなし人材による着地型観光を充実します
- 施策3 インバウンドへの対応を強化します
- 施策4 観光情報（観光 DX）の基盤を整えます
- 施策5 観光交通基盤を整備・活用します
- 施策6 広域連携を推進します
- 施策7 特産品・名産品の充実を図ります
- 施策8 “小山町”をエリアとしてアピール・ブランド化します
- 施策9 DMO を設立し観光地域づくりを推進します

■富士山須走口インフォメーションセンターの充実 ■登山客導線の確保 ■ふじあざみラインの道路改良の推進

■登山案内及び指導の強化 ■須走ルートの魅力の紹介 ■須走流登山スタイルの確立

■須走口五合目散策環境の整備 ■五合目散策ツアーの開催 ■富士箱根トレイルの管理
■トレイル散策の魅力向上 ■散策コースの魅力の情報発信

■富士山眺望スポットの充実 ■案内看板の整備・案内マップの作成

■巡拝の道のルート・ポイントの整備 ■巡拝の道散策トレッキングの推進 ■“御師のまち須走”の推進
■”すばらし隊”人材養成の推進 ■富士浅間神社を中心とするお山開き・お山仕舞の推進
■須走のまち景観の保全と形成

■富士山と調和する景観づくり ■富士山における環境学習の場の提供
■マイカー規制の実施 ■富士山環境ツアーの開催 ■富士山噴火で埋もれた集落の口伝伝承と地域振興

■富士山清掃の実施 ■登山者マナーの向上

■安全・安心な観光環境の提供 ■危機管理体制のある観光地づくり

■金太郎シンボルデザインの活用 ■金太郎商品のブランド化 ■金時公園の活用
■金太郎を活用した広域連携の推進 ■相撲大会の継続開催 ■金太郎伝説ゆかりの地のPR・紹介

■富裕層等への誘客拡大 ■モータースポーツイベントへの協力 ■富士スピードウェイとの連携

■スポーツ大会などの誘致・拡充 ■ゴルフ場を活用した誘客の推進 ■スポーツ合宿の推進

■農産物の活用・農産物直売所の整備 ■農家民泊の試み ■農業体験の推進 ■林業体験の推進

■自転車大会の拡充 ■「サイクリストにやさしいまちづくり」の推進

■自衛隊イベントを通じた町のPR ■町内イベント等への参加依頼

■道の駅の活用 ■温泉資源の活用 ■歴史文化遺産の活用

■ホテルの里づくり ■北郷の森の整備 ■産業観光の提供

■足柄古道などの活用 ■市町村連携によるハイキングコースの活用 ■おやま逸話集(ストーリー)の作成・拡散

■ロケ地の発掘・整備と活用 ■映画祭の開催 ■ロケの誘致

■祭り文化の伝承とPR

■旅行会社への観光資源の紹介 ■首都圏などで開催される展示会への参加

■観光ガイドの育成 ■次世代を担う人材の育成 ■小山町観光検定の実施 ■小山町観光親善大使の認定

■インバウンドに対応したプログラムの開発 ■外国人観光客へのおもてなしの充実 ■外国語表記の充実

■総合的な観光情報の集約・発信 ■Wi-Fiスポットの整備 ■ネット予約・決済環境の整備促進

■季節運行バスの利便性向上 ■小山PA・足柄SA周辺の整備 ■ユニバーサルデザイン化・観光サインの見直し
■鉄道駅の拠点性の向上

■広域ネットワークによる取組の推進 ■金太郎にちなんだ交流の活性化

■道の駅・足柄SA・小山PAにおける販売促進・PR ■インターネットを活用した販売促進 ■ご当地グルメの開発

■地域ブランドの構築 ■ブランドイメージの確立

■町内観光の実態把握 ■戦略的観光プロモーションの実施 ■登録DMO設立
■ふるさと納税による観光活性化策の試行 ■宿泊税導入の研究・検討

第4章 基本計画

基本方針1 富士山交流観光プログラム

施策1 須走口五合目の魅力を高めます

1. 富士山須走口インフォメーションセンターの充実

- ・ 山頂・中腹・五合目の情報連携を強化し、登山ガイド人材やガイド拠点としての機能について、さらなる向上を目指します。
- ・ 繁忙期の人員の確保や、多言語対応の体制を確保・充実し、須走口インフォメーションセンターの充実を図ります。
- ・ 入山料導入を契機とした“世界一安全でエコな富士登山”の検証と、しっかりと継続していくことのできる管理運営体制の構築を進めます。
- ・ 入山管理に携わる事業者や地域おこし協力隊（おやまDMO推進員）、観光関連事業者などとの協力により、富士山須走口の環境を活かした新たな企画を立ち上げ、実施します。

2. 登山者導線の確保

- ・ 登山者動線と車両動線の完全分離、誘導サインの多言語・視認性強化を推進します。
- ・ 観光振興と交通の多様性を目指した富士山五合目への新たな交通手段（自然に負担をかけない輸送手段）について可能性を検討していきます。

3. ふじあざみラインの道路改良の推進

- ・ 大型車対応・災害耐性強化・路面補修などを一体的に進め、安心・快適なアクセス環境を目指します。
- ・ ドライブ観光の観点からも景観整備を意識し、富士山観光の玄関口としてふさわしい道路環境を整えていきます。



富士山須走口インフォメーションセンター



富士山ガイドによる案内

施策2 登山者などへの対応を充実します

1. 登山案内及び指導の強化

- ・登山中の事故やトラブルを防ぐため、登山規制や予約制を徹底するとともに、入山前の登山者への確実なルール周知・教育を徹底しておこないます。
- ・登山ガイド（「富士山ナビゲーター」）や山小屋関係者とも連携し、登山指導體制のネットワーク化を進めます。
- ・安心して登山してもらうため、インフォメーションセンター内に設置した救護所の機能を維持、継続します。

2. 須走ルートの魅力の紹介

- ・須走ルートの春から秋にまでの魅力（登拝・巡拝・遙拝）をPRするとともに、旅行会社と協力して商品化につなげていきます。
- ・多言語対応による情報提供や、外国人を含む登山初心者にもわかりやすい案内を行います。

3. 須走流登山スタイルの確立

- ・「参拝から始まる富士登山」という須走口ならではの登山スタイルをブランド化し、登山者にとっての新たな価値として確立していきます。
- ・富士浅間神社、町、観光協会が連携し、富士浅間神社参拝者の増加を目指します。

施策3 須走口五合目散策コース・富士箱根トレイルを活用します

1. 須走口五合目散策環境の整備

- ・案内板・遊歩道を整備して、須走口五合目散策の良好な状態を維持し、春から秋まで楽しめる環境づくりを推進します。
- ・五合目駐車場等において、富士山及びその周辺の眺望を見渡すことのできるスペースと環境を確保、整備します。

2. 五合目散策ツアーの開催

- ・五合目で実施している入山者情報（属性別、日時別の入山者数等）の収集データをもとに来訪者の状況を把握するとともに、需要を分析して地域振興施策につなげます。
- ・「富士山の自然体験拠点」としての須走口のブランド化を進め、子どもから高齢者までの幅広い年齢層が通年で（春から秋まで）参加できる散策・観察プログラムの整備を推進します。
- ・地元の高校生や地域住民を対象とした散策ガイドの育成により、持続的な担い手の確保を図ります。

3. 富士箱根トレイルの管理

- ・富士箱根トレイル（約43km）の持続可能な管理を構築するため、人材の育成と資金の確保に努めます。また、ICT活用による管理・案内体制の整備を推進します。

4. トレイル散策の魅力向上

- ・「眺める富士山」の観光資源としてトレイルの魅力を発信します。また、トレイル散策や地域資源を活かした滞在型・体験型観光へとつなげていくとともに、外国人観光客に向けた情報整備も強化していきます。
- ・地域おこし協力隊（「富士箱根トレイルコーディネーター」）と連携してガイドツアーをイベント開催するなど、試行的な取組を進め、ツアーの定期的な開催へとつなげます。

5. 散策コースの魅力の情報発信

- ・須走口五合目、富士箱根トレイル、足柄峠、金時山の情報について、季節とコースの関連付けを持たせながら情報を発信し、地域散策につなげます。
- ・散策コースの距離やコース上の地域資源の魅力、アクセス方法などの散策情報を収集・更新して適切に提供します。

施策4 富士山の眺望スポットを整備します

1. 富士山眺望スポットの充実

- ・足柄城はご城印などの取組に合わせた環境整備を推進します。
- ・令和7年に整備された誓いの丘公園をはじめとした眺望スポットについて、SNSや観光マップ、ウェブサイトでPRします。



夕暮れの誓いの丘

2. 案内看板の整備・案内マップの作成

- ・案内看板の更新計画を策定し、素材・デザインの統一、耐候性の向上、多言語対応を推進します。
- ・紙面のマップに加え、GPS連動型のスマホ用マップやAR（拡張現実）機能付きガイドアプリの導入について関係機関との連携しながら検討します。

施策5 富士山巡拝の道*プロジェクトを進めます

*富士山巡拝の道とは、富士山への信仰に基づき、山頂への登拝、各地からの遥拝、山麓の霊地巡拝を再現した道です。特に須走地区では、東口本宮富士浅間神社から富士山須走口五合目までの登山ルートが「富士山巡拝の道」として整備されています。

1. 巡拝の道のルート・ポイントの整備

- ・足柄峠から富士浅間神社に至る巡拝の道を整備・PRします。また、浅間神社から五合目までの富士箱根トレイルのルートを計画的に整備します。
- ・登山道整備については引き続き静岡県との連携を密にしつつ、小山町による下山道整備の技術・体制の持続強化を図ります。

2. 巡拝の道散策トレッキングの推進

- ・散策路を整備した小富士周辺や、まぼろしの滝周辺を含めた五合目トレッキングエリアを誰もが楽しめる「信仰・癒し・学び」の散策ゾーンとして明確に位置づけ、ブランド化と集客増を推進します。
- ・クアオルトと登山道散策コースをつなぐ周遊ルート整備や、健康増進プログラム（歩行測定・体調管理ツール導入など）との連携を強化します。

3. “御師のまち須走”の推進

- ・須走地区の宿泊・飲食・休憩施設や御師に関する町内の関係者が、須走口五合目や富士浅間神社などの取組みなどに併せて継続して連携できる仕組みをつくり、山椒を活かした特産品づくりや巡拝の道整備などによる“御師のまち須走”に向けた取組を進めます。

4. “すばらしり隊”人材養成の推進

- ・須走まちづくり推進協議会を中心として、観光客などに須走の魅力を伝え、おもてなしのできる人材“すばらしり隊”の育成と各機関との連携を進めます。

5. 富士浅間神社を中心とするお山開き・お山仕舞の推進

- ・お山開き・お山仕舞を「富士山信仰の象徴行事」として観光の柱に位置づけ、地域全体での受け入れ体制を構築します。

6. 須走のまち景観の保全と形成

- ・須走本通りを「富士山信仰の歴史と風格を体感できる景観軸」として位置づけ、統一感あるまちなみデザインの保全と整備を進めます。
- ・まちなみデザインの形成においては、地域の関係団体をはじめとした多くの協力者により継続的に行われている景観形成活動を促進します。
- ・無電柱化に伴うまちなみデザインの向上と、従来から実施している道路景観の向上を目指して行われている補修、清掃活動により景観形成を推進します。

施策6 富士山の環境保全を観光振興につなげます

1. 富士山と調和する景観づくり

- ・須走口五合目における新たな施設整備や更新に際しては、富士山の自然・信仰景観との統一されたデザインガイドラインを策定し、持続可能な観光拠点整備を推進します。
- ・門前町景観の柱である電線地中化については、文化的景観保護の観点からも重視し、段階的整備に向けた住民説明・合意形成を丁寧に行います。

2. 富士山における環境学習の場の提供

- ・ 須走口を拠点とした通年型の環境学習プログラムを構築し、学校教育・修学旅行・企業研修など多様な層への対応を進めます。
- ・ インフォメーション施設を中心に、学習展示の拡充、デジタル教材の導入、自然解説ツールの多言語対応などを検討します。
- ・ 地元の自然観察団体や有資格ガイド等との連携強化により、専門的かつ質の高い解説活動を充実させます。

3. マイカー規制の実施

- ・ 環境保全と観光振興を両立させる視点から、マイカー規制の必要性和効果を明確に示し、関係者や利用者への丁寧な説明と情報提供を強化します。

4. 富士山環境ツアーの開催

- ・ 「富士山環境ツアー」を小山町の自然・文化・保全活動の象徴的プログラムとして再構築し、通年型・多層的なツアー展開を目指します。
- ・ 認定ガイドの養成、質の高い解説・案内が継続的に提供できる体制を強化します。

5. 富士山噴火で埋もれた集落の口伝継承と地域振興

- ・ 宝永噴火（1707年）により埋もれた村である須走集落について、発掘調査などにより得られた情報を分析し、須走地域の新たな魅力を構築します。また、明らかになった口伝を後世に継承します。
- ・ 発掘調査により得られた埋蔵品をヒントとして、ポンペイ遺跡（イタリア）の観光をモデルとした地域振興を模索します。

施策7 美化活動を進めます

1. 富士山清掃の実施

- ・ 富士山を訪れるすべての人が美化活動に参加できるよう、常設型の清掃活動・啓発の仕組みを構築します。
- ・ ごみ削減・分別のルールを明確化し、多言語・視覚的ツールを活用した訪問者への情報提供を充実させます。



富士山一斉清掃

2. 登山者マナーの向上

- ・ デジタルサイネージやSNSを活用し、短期滞在者・外国人登山客にも届くリアルタイム型の発信手段を強化します。
- ・ 登山者向け動画やeラーニングなど、視覚・体験型の啓発コンテンツの開発・拡充を進めます。

- ・地域ボランティアや「すばらしり隊」と連携し、現地での声かけ・案内活動による啓発の実行力強化を図ります。
- ・富士山とその周辺的环境保全と安全な登山を促すため、関係機関と連携し、あらゆる手段を活用し、登山者などの登山リテラシー向上を目指します。

施策 8 観光地の危機管理対策を構築します

1. 安全・安心な観光環境の提供

- ・コロナ禍の経験を活かし、検温器や消毒液の設置、換気対策、非接触型の受付などの感染症対策の常設化や、観光施設等において過剰な混雑を避けるための情報提供などを進めます。

2. 危機管理体制のある観光地づくり

- ・多くの人を訪れる観光地において、災害や事故、感染症、テロなどのリスクに備えるために、観光客、観光関係者、地域住民に信頼される危機管理体制のある観光地づくりを進めます。
- ・観光客など町外からの来訪者に対しての大規模災害時の情報伝達については、災害対策本部を中心とした情報収集・整理体制を確立し、公式ウェブサイト、SNS等を通じて最新の災害情報、避難指示・交通規制情報、安全確保のための行動指針等をリアルタイムに発信します。また、訪日外国人観光客に対しては、多言語対応の情報サイトおよび災害時用アプリを紹介し、避難方法・安全行動を分かりやすく伝達します。

基本方針2 元気にぎわい観光プログラム

施策1 金太郎をシンボルとした観光活性を図ります

1. 金太郎シンボルデザインの活用

- ・地域事業者や団体との連携により、金太郎キャラクター使用マニュアルに基づく活用を図ります。
- ・また、PRの際には積極的に説明や案内を含めることにより、認知度の向上を目指します。



ふじおやま金太郎パウム

2. 金太郎商品のブランド化

- ・観光資源との連動（体験・飲食等）や販路の拡大により、金太郎に関する特産品ブランドの価値を更に向上させていきます。



金太郎の熊どら

3. 金時公園の活用

- ・金太郎伝説を活かした相撲大会の開催を継続するほか、登山道整備や周辺ルートとの連携によって誘客を進めます。
- ・また、地域イベントや教育的活用も視野に入れた、多機能型公園としての展開を図ります。

4. 金太郎を活用した広域連携の推進

- ・事業者や自治体と連携した協議会の設置や再構築を検討します。
- ・共通テーマによるキャンペーンやスタンプラリー等、着実に実行可能な企画から広域連携による施策を展開します。

5. 相撲大会の継続開催

- ・金太郎誕生の地としての認知度を高めながら、町外・県外からの参加者拡大を図り、広域的な交流イベントへの発展を目指します。
- ・大嶽部屋との連携を継続し、観光コンテンツとしての魅力向上を推進します。



金時公園（春まつり）

6. 金太郎伝説ゆかりの地のPR・紹介

- ・SNSや動画等を活用したオンライン発信の強化により、若年層やインバウンド層にもアプローチを推進します。
- ・グッズ展開の強化や金太郎ストーリーの形成、町内外への販売チャネル拡大により、金太郎ブランドの定着と経済的な波及を図ります。

施策2 富士スピードウェイ（FSW）周辺への誘客を拡大します

1. 富裕層等への誘客拡大

- ・ FSW周辺にある、富士の絶景と自然環境、質の高い宿泊施設や温泉、ゴルフ場などについて、インバウンド来訪者や富裕層に向けた魅力ある情報発信を強化します。
- ・ サーキットのレース観戦に訪れた来訪者が体験したくなるツアーやイベントの企画・運営者に積極的に協力し、質の高い“おもてなし”に努めます。

2. モータースポーツイベントへの協力

- ・ FSWで実施されるイベントについて、開催のPR、歓迎ムードづくりを充実します。
- ・ イベント時に発生する渋滞を緩和するため、公有地を駐車場として開放するほか、民有地の駐車場提供の依頼協力、交通整理への協力を努めます。
- ・ FSWと主要幹線をつなぐアクセス道路の新設・改善を推進します。

3. 富士スピードウェイとの連携

- ・ FSWを核とした観光周遊ルート の 造成（サイクルツーリズム、グルメ、温泉など）により、町内への滞在時間と消費の増加を促進します。
- ・ FSWで行われるマラソンや花火などに協力・連携し、まち全体でイベントを盛り上げます。



スーパーフォーミュラ



KYOJO CUP



WEC 富士6時間耐久レース



ママチャリ日本グランプリ

施策3 スポーツによる誘客を進めます

1. スポーツ大会などの誘致・拡充

- ・スポーツ大会の継続的な誘致・開催に加え、体験型・滞在型のスポーツツーリズムを推進します。
- ・スポーツ協会や事業者と連携し、交流人口の拡大と健康づくりを図ります。

2. ゴルフ場を活用した誘客の推進

- ・町内に広がる11箇所のゴルフ場と恵まれた環境を活かし、宿泊とゴルフを組み合わせた魅力的なプランの造成や、首都圏からの来訪促進に取り組むことで滞在型観光の拡大を図ります。



富士の絶景を望むゴルフコース

3. スポーツ合宿の推進

- ・合宿型スポーツツーリズムを推進し、宿泊や観光との連携を強化します。
- ・準高地にある自然環境や温泉などの地域資源を活かし、誘客と経済効果の拡大を図ります。



スポーツ合宿（陸上）

施策4 農のある暮らしをにぎわいに活かします

1. 農産物の活用・農産物直売所の整備

- ・米やワサビ、水かけ菜、トマトなど、小山町産農産物のPRを実施します。また、小山町産農産物を活かした加工品の開発などを支援します。
- ・地元農作物の販売を拡大させるために、道の駅などの農産物直売所を充実します。



金太郎トマト

2. 農家民泊の試み

- ・農家民泊に関係する会議や各種イベント等を通じて、受入農家との情報交換を深めて、農家民泊の試みを継続します。

3. 農業体験の推進

- ・中山間地域等直接支払交付金等の制度を活用し、農業体験の受入団体が今後も維持継続できる体制づくりのサポートを強化します。
- ・首都圏の子育て世代が楽しむことのできる多彩な農業体験プログラムが提供できる受け入れ体制づくりを進めます。

4. 林業体験の推進

- ・サントリー天然水の森しずおか小山（北郷の森）について、既存の自然環境を活かしながら、町民が気軽に訪れ楽しむことのできる森林を目指し、整備を実施します。

施策5 自転車による観光振興を進めます

1. 自転車大会の拡充

- ・ツアー・オブ・ジャパン富士山ステージの賑わいを継続、充実していくため、安全で魅力のある大会の開催に取り組めます。
- ・また、より多くのファンが安全で迫力のある観戦ができる試行的な取組を進めます。



ツアー・オブ・ジャパンの開催

2. 「サイクリストにやさしいまちづくり」の推進

- ・フジサイクルゲートを地域拠点施設として位置づけ、ナショナル・サイクル・ルートへの登録に向けた取組を進めます。
- ・サイクルボール富士いち等とのイベント連携や観光案内機能の強化によりサイクルツーリズムを推進します。
- ・サイクリングと町内観光資源（温泉、グルメ、文化）を組み合わせた周遊型観光商品の造成を促進します。
- ・サイクリストフレンドリーな宿泊施設・飲食店の認定制度導入や情報発信の強化を進めます。また、サイクリストの発着点として、道の駅「すばしり」の整備（サイクルラック、休憩場所、バイシクルピット、工具設置、レンタサイクル）を進めます。



フジサイクルゲート

施策6 自衛隊との連携による観光振興を進めます

1. 自衛隊イベントを通じた町のPR

- ・自衛隊イベントに集まる多くの来訪者に対し、町や観光協会、商工会が一体となった自衛隊への働きかけにより、特産品販売やパンフレットの配布など、県外をはじめとした来訪者への小山町のPRを行います。

2. 町内イベント等への参加依頼

- ・町内で実施するイベントの魅力を高めるため、自衛隊車両の展示や、富士学校音楽隊の出演、ボランティア支援など、自衛隊のイベント参加依頼を継続します。

施策7 観光関連資産を活用します

1. 道の駅の活用

- ・適切な施設管理を行い、多くの観光客が立ち寄りたくなる、これまで以上に魅力のある場としていきます。
- ・指定管理者と協力し、町民も広く利用できる店舗形態を構築して、地域活性化を図ります。
- ・道の駅「ふじおやま」では、駐車場の増設やベーカリー棟の整備、特産品の販売、イベント実施などによりにぎわいを創出し、観光拠点としての機能を高めます。
- ・道の駅「すばしり」を富士山の玄関口として、観光案内や特産品販売の充実、周辺観光地との連携により魅力向上を図ります。



道の駅「ふじおやま」



道の駅「すばしり」

2. 温泉資源の活用

- ・あしがら温泉において適切な施設管理と活用を実施していくために、指定管理者との協調により、町の魅力を発信します。
- ・あしがら温泉に加えて、宿泊施設やレジャー施設の温泉を観光資源と位置づけ、町内外の多くの方が利用しやすい施設となるよう、取組を進めます。
- ・温泉のある施設を効果的に活用し、「温泉のまち小山町」としての滞在型観光（湯治、ワーケーション等を含む）と誘客の拡大を図ります。
（ターゲット来訪者：合宿、アウトレット、登山者、ゴルフ、FSWなど）



あしがら温泉から望む富士山

3. 歴史文化遺産の活用

- ・国登録有形文化財である豊門会館、西洋館などを擁し、ロケ地としても頻繁に活用されている場所である豊門公園について、適切な管理を行うとともに、コンテンツの刷新や外部との連携による企画力向上により、町のPRに活用します。
- ・また、同じく国登録有形文化財である森村橋の保存と活用についてイベントや周遊観光に活用します。



豊門公園（西洋館）



森村橋

施策8 新たな観光スポットを整備します

1. ホタルの里づくり

- ・小山町生涯学習施設や明倫地区を拠点とした「ホタル観賞ルート」や案内看板の整備など、観光受入環境の充実を図ります。
- ・ホタル観賞を通じた自然体験型観光との連携による地域経済活性化を目指します。

2. 北郷の森の整備

- ・森林と触れ合うことのできる場所として、民間組織・小山町・県が活動している北郷の森について、活動の継続に努めます。
- ・また、遊具や外トイレなど、公園的利用を視野に施設整備を検討するとともに、維持管理の方法を模索します。

3. 産業観光の提供

- ・民間組織との協働により、これまでに実施した工場見学を継続的に実施していくほか、新たな見学先の開拓を進めます。

施策9 ハイキングコースを活用します

1. 足柄古道などの活用

- ・足柄古道などのハイキングコースに、来訪者が安心して散策できる道標や案内板の整備を進めます。
- ・古代東海道ともいえる足柄古道や、曲輪の残る足柄城址の歴史的な魅力を掘り起こして、新たな伝説として情報発信するほか、歴史散策ルートの設定と整備を進めます。
- ・足柄古道や足柄城址について、地域内での案内体制やガイド人材の育成を進めるとともに、地域住民や団体と連携し、環境整備体制を整えます。



ガイドによる足柄古道ツアーの様子

2. 市町村連携によるハイキングコースの活用

- ・隣接する市町との連携強化を図り、広域ハイキングルートを明確にするとともに、案内表示の統一、共同イベントの企画などに取組みます。特に、古代東海道コースの整備に際しては南足柄市との連携による整備を進めるほか、御城印などの来訪記念となるグッズや土産の開発とPRを推進します。
- ・町内の社寺仏閣（唯念寺、宝鏡寺など）を巡る散策を地域の歴史文化を楽しむコースに取り入れ、観光振興を促進します。

3. おやま逸話集(ストーリー)の作成・拡散

- ・昔話・伝説、歴史・人物、祭り・信仰、生活文化、自然・地名についての町内の逸話を集め、または掘り起こして、郷土を楽しむことができるガイドマップや逸話集を作成します。
- ・作成した逸話集を若者やクリエイターが興味を持ちやすいコンテンツとして、語り、体験し、共創していきます。
- ・作成に際しては、観光関係者のほか、小中学生や郷土に詳しい高齢者の参加しやすい手法を取り入れて、情報の収集、編集、発信に取り組めます。

施策 10 ロケ地としての強みを活かし知名度を高めます

1. ロケ地の発掘・整備と活用

- ・ロケ地めぐりツアーなどロケ地のPRによる観光振興を図ります。
- ・町内の撮影場所をまとめたマップを作成し、来訪者がロケ地めぐりを楽しめる環境づくりやロケ地ツアーを進めます。
- ・ロケ地を特集した雑誌やインターネットを活用し、町内の撮影場所や撮影秘話などを紹介します。
- ・新たなロケ地の掘り起こしや撮影拠点の整備などを進めます。

2. 映画祭の開催

- ・町の関係者や外部専門家と連携し、実行委員会の再編や企画内容の見直しを行い、関係機関との連携を強化しながら、町の知名度向上につながる映画祭の開催を目指します。

3. ロケの誘致

- ・「スタジオタウン小山」の認知度向上を図るとともに、ロケ誘致後の観光や特産品販売など地域経済への波及効果を高める取組を強化します。



町内へのロケの誘致

施策 11 祭りを誘客につなげます

1. 祭り文化の伝承とPR

- ・町内で継続されている「金太郎春まつり・夏まつり」「足柄峠の笛祭り」「須走の春祭り」などの開催状況と楽しさについて情報を発信していく取組を支援します。
- ・地域に残る“祭り文化”を後世に伝えるための活動を支援するほか、祭りの観光資産としての魅力について、情報を提供します。

基本方針3 観光インフラ整備プログラム

施策1 シティプロモーションの充実を図ります

1. 旅行会社への観光資源の紹介

- ・首都圏・名古屋・大阪にある商談会等について、積極的な情報収集と参加を行い、本町の魅力についてPRする活動を強化します。
- ・活動の展開においては、行政、商工会、観光協会などが協調・協力して効果的な施策展開・PRを強化していきます。

2. 首都圏などで開催される展示会への参加

- ・首都圏や名古屋、大阪などで開催されている展示会等の情報を積極的に収集します。
- ・観光協会との連携しながら、観光や食品などの展示会に町内企業などを募って参加し、町の観光施設や自然環境、宿泊施設、地場産品などについて効果的なPRを実施します。



東京でのPR展



首都圏で開催された展示会

施策2 おもてなし人材による着地型観光を充実します

1. 観光ガイドの育成

- ・現在観光ガイドとして活躍している方の協力を得て、地域の観光を支えていく新たなガイドの育成を推進します。

2. 次世代を担う人材の育成

- ・中高生を対象とした観光ワークショップや観光ガイド体験などを通じて、次世代の観光を担う人材を育成します。

3. 小山町観光検定の実施

- ・観光客をもてなす基礎知識として必要な町の観光資源を学ぶために、小山町観光検定制度を創設し、実施します。

4. 小山町観光親善大使の認定

- ・小山町親善大使の任命を継続し、本町の魅力についての情報を計画的かつ効果的に発信します。

施策3 インバウンドへの対応を強化します

1. インバウンドに対応したプログラムの開発

- ・外国人観光客に向けた小山町らしさを活かすプログラム・ツアーを開発し、提供します。
- ・特に、インバウンド富裕層のニーズに対応できる魅力的な体験プランを構築し、長期滞在を促進します。

2. 外国人観光客へのおもてなしの充実

- ・外国人観光客に対応するため、外国語の対応ができるガイドの育成を促進します。
- ・宿泊施設、飲食店、物販店、観光ガイドなどを対象として、外国人への接客や外国語を学ぶおもてなしセミナーを開催します。

3. 外国語表記の充実

- ・町内における外国語表記のあり方を整理して、整備方針を定め、効果的な整備を計画的に進めます。



外国語版パンフレット

施策4 観光情報（観光DX）の基盤を整えます

1. 総合的な観光情報の集約・発信

- ・観光情報を一元管理する仕組みを整備し、ウェブやSNSによる発信を強化します。また、リアルタイムで更新できる体制づくりや、外国人観光客に対応した情報提供、新たな媒体による広報展開を推進します。
- ・SNSの多様化と効果的な活用を図るとともに、ホームページの見やすさと情報の発信力を高めます。
- ・また、HPへのアクセスの分析を活かし、関心の高い情報を軸に戦略的な情報発信につなげていきます。

2. Wi-Fiスポットの整備

- ・町全域で安定した通信環境を整え、誰もが快適に情報収集・滞在できる環境を構築します。
- ・特にワーケーションやデジタル観光ニーズに対応したインフラについては、早急な対応に努めます。

3. ネット予約・決済環境の整備促進

- ・ネット予約・決済を希望する事業者（宿泊施設、飲食店、物販店など）が利用できる補助制度の紹介など、DXの導入支援を進めます。

施策5 観光交通基盤を整備・活用します

1. 季節運行バスの利便性向上

- ・利用者ニーズの把握しながら、利便性と効率性のバランスがとれた運行を図ります。

2. 小山PA・足柄SA周辺の整備

- ・小山PA、足柄SAの周辺において、民間活力と連携した観光拠点の整備を推進するほか、小山PA、足柄SAと富士山や町内の観光拠点を結ぶ観光ルートの形成を促進します。

3. ユニバーサルデザイン化・観光サインの見直し

- ・誰もが使いやすいユニバーサルデザインに配慮した観光施設づくりと、分かりやすい案内サインの整備を推進します。

4. 鉄道駅の拠点性の向上

- ・御殿場線駿河小山駅、足柄駅の観光拠点性を高め、多くの観光客が利用する鉄道駅及び駅交流センターとしていきます。

施策6 広域連携を推進します

1. 広域ネットワークによる取組の推進

- ・広域連携によるPRを推進するとともに小山町の特徴を効果的に発信し誘客につなげます。
- ・町内関係者との連携を強化しながら、SNSなどを活用した継続的な情報発信を推進します。

2. 金太郎にちなんだ交流の活性化

- ・金太郎（坂田金時）にちなんで観光交流をしている、岡山県勝央町や京都府福知山市との連携を継続していきます。
- ・また、連携に関する情報や実施していく魅力的な取組みを強化することにより、交流を活性化します。

施策7 特産品・名産品の充実を図ります

1. 道の駅・足柄SA・小山PAにおける販売促進・PR

- ・道の駅（ふじおやま、すばしり）、足柄SA、小山PAに特産品販売コーナーを設置し、商品のPRを強化します。

2. インターネットを活用した販売促進

- ・町外への販売促進に向け、SNS活用やデジタルマーケティングを強化し、推奨品の認知度と販売力の向上を図ります。

3. ご当地グルメの開発

- ・地域農産物を活かしたご当地グルメの創出に向けた試験的な食材提供やイベントでの販売と情報発信を通じてブランド化を進め、高めていきます。
- ・飲食店・宿泊施設との連携によるメニュー化と提供を促進します。



地元で収穫されたわさびを使ったわさび漬

施策8 “小山町”をエリアとしてアピール・ブランド化します

1. 地域ブランドの構築

- ・「小山町ブランド」の再構築を進め、水かけ菜や金太郎にちなんだ銘菓などを軸にプレミアム商品を育成し、販路を拡大します。特に民間事業者と連携を強化し、町内外への発信力を高めます。

2. ブランドイメージの確立

- ・観光振興推進会議からの助言を受けて、本町のコア（核）となるブランドイメージを確立し、中長期にわたる効果的な情報発信を戦略的に進めます。
- ・各行事において統一ロゴを使用していくため、ロゴについての現状を整理し、効果的なデザインの選定やルール作りに取り組めます。



水かけ菜の漬物

施策9 DMOを設立し観光地域づくりを推進します

1. 町内観光の実態把握

- ・地方創生推進交付金を活用した、観光地域づくりを推進するため、組織構築のための資料収集・調査を実施し、町内観光の実態を把握します。

2. 戦略的観光プロモーションの実施

- ・観光プロモーションを戦略的に進めていくため、観光案内所における情報提供機能の強化、大規模集客施設（F S W、富士霊園等）と連携したPR活動の実施、宿泊客増のための着地型旅行商品の造成、自転車を活用したまちづくりなどを推進します。

3. 登録DMO設立

- ・令和7年7月に観光庁に届け出ている候補DMO（株式会社まちづくり公社おやま）が登録DMOの認定を受けられるように、及び関係する事業者等と連携した取組を進めます。
- ・地域おこし協力隊をDMO専属として雇用し、新たな企画や、スピード感のある事業展開に取り組めます。

4. ふるさと納税による観光活性方策の試行

- ・特産品、グルメ、体験型観光商材を活用した「ふるさと納税」の充実について検討し、試行します。

5. 宿泊税導入の研究・検討

- ・観光インフラの整備や観光資源保全などの新たな財源としていくことを目指し、全国的に導入が進められている宿泊税について、本町への導入を研究・検討します。

第5章 計画推進について

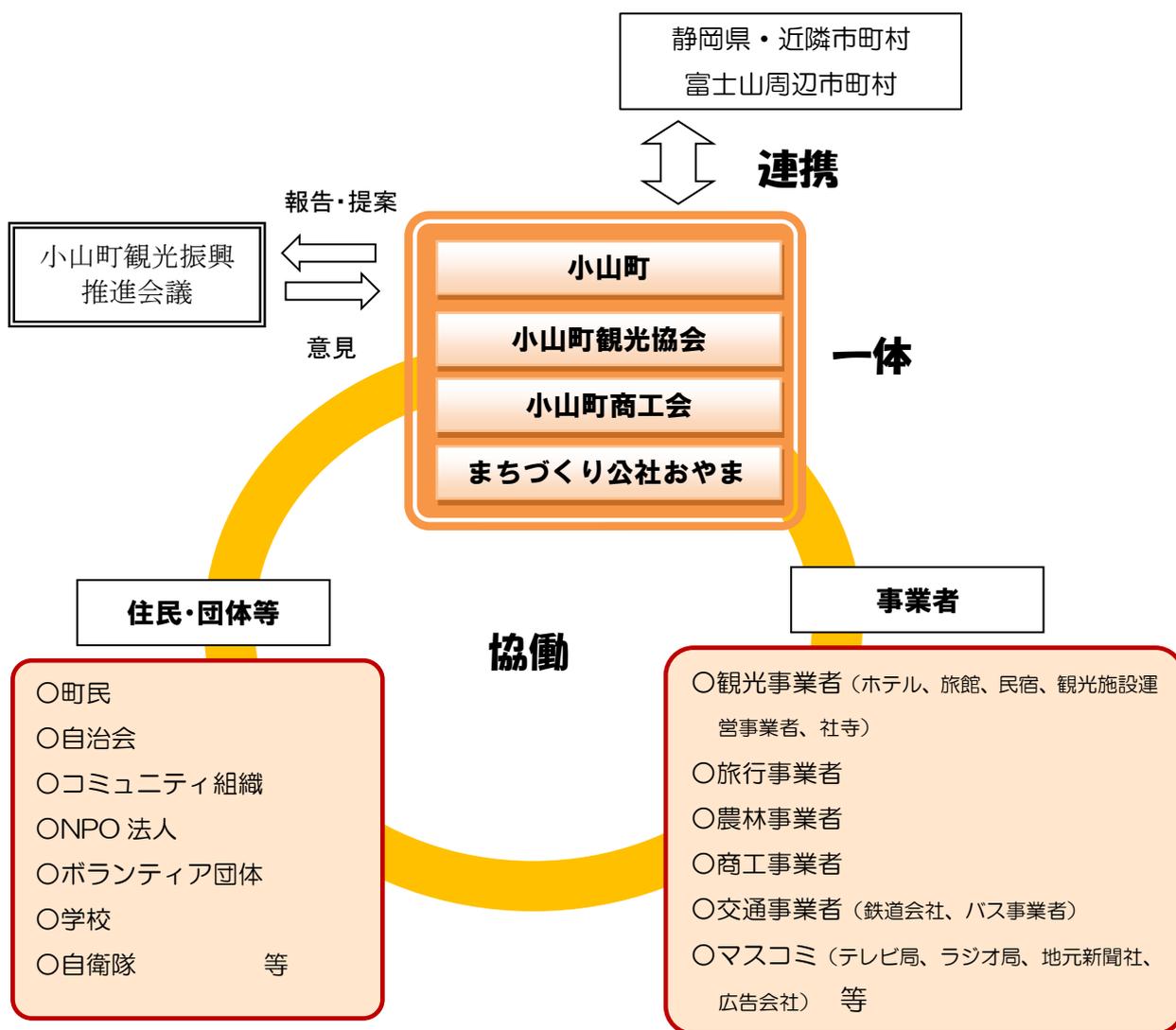
1 基本的な考え方

- 行政や観光協会のみでなく、各種団体や住民などが協力して、小山町の新たな観光づくりに取り組んでいくことを重視します。
- 交通渋滞やゴミの不始末などのオーバーツーリズムの弊害に対して、断固とした姿勢で取組み、地域町民の安心・安全な暮らしを守るための取組を実施します。
- カーボンニュートラルに向けた取組を念頭に先駆的な施策を取り入れて優先的に実施します。
- それぞれの取組主体の努力を重視します。また、各主体間の連携を強化し、目標を共有し、共に力を合わせていく協働の取組を重視します。
- 学生、子育て世代、年配者など、性別年齢を問わず常に幅広い視野を持ち、町民自身が楽しいと感じられる町を観光施策の視点から目指します。
- 観光プログラムの醸成にあたっては女性の視点も重要であることから、推進体制の中で女性の関与・参画を進めます。
- 事業の実施に際しては、必要に応じて小山町観光推進会議の意見を聴くものとします。
- 地域経済の活性化につながる持続可能な取組が体系的に位置づけられた「稼ぐこと」のできる計画とします。

2 推進体制

- 小山町、小山町観光協会、商工会、まちづくり公社おやまが一体となるとともに推進体制の中心となって、事業者（観光事業者、旅行事業者、農林事業者、商工事業者、交通事業者、マスコミ など）、住民・団体等（町民、自治会、コミュニティ組織、NPO法人、ボランティア団体、学校、自衛隊 など）の協力を得て、関係主体の協働体制により、取組を進めます。
《具体的な協働の場面》
 - －観光に携わる関係者同士の情報交換や共有に留意し、協働の基礎を拡充します。
 - －地域活動団体と観光関連事業者の協働による新たな旅行商品の開発や販路の拡大
 - －農林事業者と民宿、マスコミの協働による新たな民泊商品のモデル的な取組
 - －観光協会とボランティア団体の協働による町内観光資源のメンテナンスイベントに向けた取組
 - －観光プログラム検討における女性参画の推進
- 静岡県、富士山周辺市町村、近隣市町村（御殿場市、南足柄市、山北町、山中湖村、箱根町など）との連携による取組を進めます。

■推進体制のイメージ



小山町役場 経済産業部 商工観光課
〒410-1395 静岡県駿東郡小山町藤曲 57-2
Tel:0550-76-6114 Fax:0550-76-2795
Mail: kankou@fuji-oyama.jp